

藤沢消費生活展に参加して

標準化を考える会と、会のメンバーである滝口さん（ニッセンケン品質評価センター）が連携して、「安全な子ども服」をテーマに藤沢市消費に参加し、展示とステージ発表を行いました。

標準化を考える会は、今年二つの消費生活展に参加して、JIS L 4129 の啓発の大切さを実感しました。マスコミは、珍しい時は取り上げますが、社会に浸透させるまでには至りません、やはり地道な啓発活動が必要だと思います。会場のステージでは、講座に加え、子どもたちのダンスや大人のコーラス発表、近郊の園児が描いた絵の展示もありました。これらが、消費生活展の来場者動員に、大きく貢献していると思います。「最近、危ないヒモが付いた子ども服は本当に少なくなりましたね！」というご意見もあり、4129 が徐々に浸透していることが確認できました。今後も啓発を続けていくことが大切だと改めて認識しました。

（標準化を考える会 森口美加子）



標準化を考える会と連携し、今回、お隣同士でブース出展を行いました。ニッセンケンでは、「ファッションで児童・子どもを交通事故から守る」というテーマで啓発活動を行っており、ドライバーから見やすい再帰性反射材や蛍光素材を自由に使った高視認性安全服を文化服装学院の学生さんたちに制作していただき、それを紹介しました。大変好評で、親子連れの皆さんから「かわいい!」「うちの子にも着せたい」との声を多数いただきました。普段地域の活動に参加していないので、手作り感のある展示会が



（高視認性安全服）

新鮮でした。こういうところで地道に啓発していく必要性を再認識しました。

（標準化を考える会 ニッセンケン品質評価センター 滝口順司）